

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室，LD・ADHD等通級指導教室 2人（男子2）
指導者 T1 北川 政人 T2 福田 雅紀

1 題 材 名 トラブル解決虎の巻を作ろう

2 題材について

(1) 題材の価値

対象児2人は、友達と一緒に遊んだり、クラスの仲間と共に活動したりすることが好きであり、積極的に関係をもとうとする様子がみられる。また、これまで、友達とうまくかかわれず、けんかになったり、その後疎遠になってしまったりすることがあったものの、その経験を生かしてもっと上手に友達とかかわりたい、友達を増やしたいという前向きな気持ちをもっている。対象児二人が、人とかかわる上でトラブルが生じる理由を考えると、まず、相手の気持ちや周囲の状況を考えることが苦手であるということが挙げられる。ただし、これまでの学習の中で、二人とも心理的に落ち着いた状態であれば、ある程度考えることができるようになってはきている。次に、初めての状況に対して柔軟に対処することが難しいということがある。何度か経験した場面であれば、自分のとるべき最善の行動を考えたり、気持ちをコントロールして行動したりすることができることが多いが、経験していないことに対してはどうしてよいか分からず、善悪の判断がつかずに行動してしまうこともある。さらに、自分の思いがかなわなかったときや友達に無下にされた際に、衝動的に怒りを爆発させてしまい、結果としてトラブルになることも多い。

そこで、本題材は、対象児二人が、日常生活の中でトラブルになりそうなときに、トラブルにならないように自ら心掛けたり、あるいは周りの人の力を借りて解決しようとしたりする気持ちをもつことができるようにする。また、今後考えられるいくつかのトラブル場面を取り上げて、具体的にどうすればよいかを考えたり、役割交代劇等で疑似経験をしてみたりすることで、実際に同じ様なトラブル場面に遭遇した際に、その経験を生かして最善の方法を考えて行動することができるようにする。さらに、怒りがこみ上げてきた際にその気持ちを静める方法をいくつか経験して、自分なりの方法を身に付けることで、気持ちをコントロールして行動することができるようにする。

指導に当たっては、トラブルになったときにそれを解決するための方法を記入したトラブル解決虎の巻を作りあげて対象児に提案する。この虎の巻には、本題材で学習することが書いてあり、それを見ることで、これから何を学習していくのかという見通しをもつことができるようにする。また、学習するごとに自分で解決方法を記入していき、一つずつ虎の巻が完成していくことで達成感を味わいやすいようにしたい。さらに、この虎の巻を日常生活でも常に持ち歩いたり、使ったりすることで、学習したことを想起しやすいようにするとともに、これを持っていることが心の支えになるようにしたい。また、4つのトラブル場面を取り上げて、その場面で考えられる最善の行動を話し合い、その結果をもとに役割交代劇で実際に経験する。そして、VTRにその様子を撮り、対象児が自分の姿を視覚的に振り返ることができるようにする。自分の行動を客観的に捉えることでその行動をより意識して、実際場面で想起しやすいようにしたい。さらに、怒りを静める方法については、「おまじない」という言葉を使うことで対象児の意欲と意識を高めたい。また、一つの方法だけではなく、複数の「おまじない」を経験することで、自分がやりやすい、自分に合った方法を身に付けることができるようにしたい。

このような学習を通して、対象児は、学習後も作った虎の巻を更に自分なりに積み重ねて、学習した以外の場面でも、最善の行動をとったり、気持ちをコントロールしたりすることができるようになると期待する。そして、周りの人たちの気持ちや状況を考えて行動をとるとともに、楽しく、よりよい関係を築くことができるようになることを考える。

(2) 題材の目標

トラブルになりそうなときに、トラブルにならないようにするための方法を積極的に考えることができる。

4つのトラブル場面において、友達と話合ったり、役割交代劇の中で経験したりすることで、自分がとるべき最善の方法を考えることができる。

4つのトラブル場面において、友達と話合ったり、役割交代劇の中で経験したりすることで、自分なりの怒りの気持ちを静める方法を身に付けることができる。

(3) 対象児の実態

	A児(6年)あけぼの教室	B児(6年)たいよう教室
教育的ニーズ	相手の気持ちや周囲の状況を考えて行動すること。 自分の思いとは違うことが起こったときに自分の気持ちをコントロールしたり、最善の解決法を考えたりすること。	相手の気持ちを考えることができるようになること。 トラブルに遭ったときに、その対処の仕方を知ること。 社会のルールについて学ぶこと。
気持ちの自己コントロール	衝動的な行動があり、その場合にコントロールがきかないことが多い。事前に約束をしたり、見通しをもったりすることで気持ちをコントロールすることができるようになりつつある。	事前に約束したことに関しては、意識して守ろうとすることができる。 言い争いになったときに、自分の気持ちを言葉でうまく説明できないときには、衝動的な行動をしてしまうこともある。
対人関係	人とかがわることが大好きで、一人でいるよりも友達と行動することを好む。自分では仲良くしたいと考えているが、何かの拍子に感情的になったり、自己中心的になったりして、うまくかわれないことが多い。	下級生等に対しても優しい気持ちで接することができる。同じ学年の友達とも積極的にかかわろうとしているが、初対面ではなかなか自分から進んでとけ込めないときもある。
相手の気持ちの推察や周囲の状況の把握	落ち着いた状態であれば、気持ちや状況を考えることができるようになってきた。初めての場面や予測していない場面では考えることが難しい。	相手の気持ちや周囲の状況を考えて行動しようとする意識は高まってきたが、その場にふさわしい行動を取ることができないことも多い。
トラブルに関する認識	やっではいけないことは分かっているが、誘われると断りきれずに誘いののってしまうことが予想される。事前調査でもどうすればよいか分からなくなると回答することが多かった。	友達と遊ぶ中で、楽しくて夢中になりすぎると、時間の感覚や善悪の判断が難しくなるときがある。落ち着いた状況の下では、ふさわしい行動をある程度考えることができる。
意思の伝達	自分の考えは言葉ではっきりと伝えようとする。時々、思いが強くなりすぎて、話の脈絡がなくなり、相手に伝わりづらくなることもある。	自分の伝えたいことを言葉で表現することに抵抗はあまりないが、語いが少ないことと相手の話が聞き取れないために、コミュニケーションがうまくいかない場合がある。
話合い活動	自分の意見を積極的に発表する。相手の意見も聞くことができるが、自分の意見と相手の意見を比べて、両者が納得できる結論を導くことは難しい。	自分の考えを積極的に発表することはできるが、自分の意見と相手の意見を比べたり、まとめたりする話合い活動を進める力はまだ身に付いていない。
WISC検査の結果から	視覚的な情報を基に考えることの方が得意である。 物事を順序立てて考えていく方が理解しやすい。 見たり体験したりしてから考える方が理解しやすい。	難聴はあるが言葉で説明を聞いたり、考えたりする方が得意である。 経験していないことへの不安が強いので、事前に実際にやってみることでスムーズに対処できるようになる。

3 指導に当たって

本題材の指導に当たっては、子ども一人一人が、分かりやすく、「学び」を生かしやすいように、以下の点に留意して指導をしていく。

研究の視点1 分かりやすく、「学び」を生かしやすい授業づくり

- ・ トラブルを解決する方法や自分の気持ちをコントロールする方法については、考えたことを疑似経験(役割交代劇)させることで、子どもたちにより強く意識付けることができる。また、劇をしている姿をVTRに撮り、自分の姿を視覚的に見るができるようにすること、その方法の中で大事なポイントの一つ意識させることで、子どもたちは記憶しやすくなり、日常生活場面でも想起しやすくなるのではないかと考える。
- ・ A児は視覚的な情報をもとに順序立てて考えていくことが得意であり、B児も言葉による情報をもとに順序立てて考えていくことが得意である。そこで、毎時間、学んだことをトラブル解決虎の巻という名のメモ帳に記入するとともに、日常生活でもそれを確認しやすくすることで、実際に必要なときに学んだ解決方法を活用できるのではないかと考える。

研究の視点2 「学び」を生かすための家庭や交流学級との連携づくり

- ・ 家庭や在籍校との連携においては、子どもが日常生活でもトラブル解決虎の巻を活用することに重点をおく。具体的には、子どもが、新たに学んだことをトラブル解決虎の巻を見ながら保護者や在籍校担任に説明したり、実際にトラブル場面を回避、解決できた際は、保護者や在籍校担任に報告して、称賛の言葉を記入してもらったりすることで、活用が習慣化するようにしたい。そのためにも、題材導入時に、保護者・在籍校担任用の題材マップを作成して、題材の意義を共通理解するとともに、授業中に撮影したVTRを送付して学習内容を具体的に理解してもらいやすくし、子どもがトラブル解決虎の巻を活用できるように連携を図る。

4 指導計画（全10時間）

過程	時間	指導のねらいと主な活動内容
1 次	1	<p>「トラブル解決虎の巻って何だろう？」</p> <p>【指導のねらい】 トラブル解決虎の巻の全ページを見ながら学習の流れを知り、この学習をする理由を自覚することができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの自分の経験（トラブルに関する）を振り返る。 2 これからの自分たちにどんなことが必要か、また、それを知っているとどんなことに役立つかを話合う。 3 トラブル解決虎の巻で学習全体の見通しをもつ。 4 自分の決意を語る。（VTR撮影）
2 次	4	<p>「こんなときはどうする？」</p> <p>トラブル場面</p> <p>第1回「悪いことに誘われたとき」（1時間） 第2回「悪いことを強要されたとき」（1時間） 第3回「お金や物を要求されたとき」（1時間） 第4回「けんかをしかけられたとき」（1時間）</p> <p>【指導のねらい】 具体的なトラブル場面で最善の行動を話し合い、大事なポイントを確認した上で、劇の中で実際にやってみることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トラブル場面を知る。（文を読んだり、絵を見たりする。） 2 自分ならどうするかを選択する。 3 互いの選択した結果を見て、その選択で問題はないかを話合う。（問題が出ない場合は、教師が提案する） 4 最善の行動を話し合い、その場面で大事なポイントを確認する。 5 トラブル場面について役割交代劇をする。（VTR撮影） 6 VTRを見ながら、大事なポイントを中心に自分の行動を振り返る。 7 トラブル解決虎の巻に、本時で学習した、その場面での最善の行動や大事なポイントを書く。
3 次	4	<p>「怒りを静めるおまじない」</p> <p>トラブル場面</p> <p>第1回「仲間に入れてもらえないとき」（1時間） 第2回「勝負に負けてしまったとき」（1時間：本時） 第3回「自分の意見が通らなかったとき」（1時間） 第4回「無視されたとき」（1時間）</p> <p>【指導のねらい】 怒りが込み上げてきたときに自分の心を静めるための方法をいくつか考えたり、その中から選んだりして、それを劇の中で実際にやってみることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トラブル場面を知る。（文を読んだり、絵を見たりする。） 2 どうやって怒りを静めるかを考えて、話し合い、選択する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目以降は、前回のVTRを見る。 ・ 話し合いの中でいくつか出た意見をもとに、自分はどれを選択して怒りを静めるかを決める。 3 それぞれが選択した方法で、大事なポイントを確認する。 4 トラブル場面について役割交代劇をする。（VTR撮影） 5 VTRを見ながら、大事なポイントを中心に自分の行動を振り返る。 6 トラブル解決虎の巻に、本時で学習した、怒りを静めるおまじないやそれをする際の大事なポイントを書く。
4 次	1	<p>「トラブル解決虎の巻を読み直そう」</p> <p>【指導のねらい】 これまでの学習を振り返り、自分の成長を確認する。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでのVTRを見たり、トラブル解決虎の巻を見たりして、活動を振り返る。 2 成長したことやできるようになったことを確認する。

家庭や在籍校との連携

目 標
<p>【家庭】</p> <p>トラブル解決虎の巻を見ながら、その週に学習したトラブル解決方法を保護者に説明することができる。</p> <p>家庭でイライラしたときに、自分がイライラしていることを保護者に伝え、学習した解決方法を用いて気持ちを静めることができる。</p> <p>【在籍校】</p> <p>トラブル解決虎の巻を見ながら、その週に学習したトラブル解決方法を担任に説明することができる。</p> <p>学校で、怒りがこみ上げてくるのがあった際に、学習した解決方法を使って気持ちを静めることができる。また、そのことを担任に伝えることができる。</p>
<p>連 携</p> <p>【活動前】</p> <p>題材マップをわたして、題材の流れや目標について共通理解する。</p> <p>【1次後】</p> <p>自分の決意を語ったVTRを保護者や担任にも見てもらい励ましの言葉を掛けてもらう。そして、トラブル解決虎の巻の所定の欄に、メッセージを書いてもらう。</p> <p>【2次以降】</p> <p>それぞれの活動後にトラブル解決虎の巻の所定の欄に励ましのメッセージを書いてもらう。また、家庭や学校で実際にトラブルがあった際に子どもから報告があったら、賞賛したり、励ましたりしてもらい、トラブル解決虎の巻に記入してもらう。</p>

5 本 時 (7 / 1 0)

(1) 目 標

勝負に負けてイライラしたときに自分の心を静めるおまじないを考えるとともに、それを役割交代劇の中で実際にしてみることができる。

自分の心を静めるおまじないとその大事なポイントを、トラブル解決虎の巻に記入することができる。

(2) 展 開 (4 5 分)

時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
(分) つみ かと むお す (7) かつ どう する (30) (8)	1 はじまりのあいさつをする。 2 本時のトラブル場面を確認する。 勝負に負けてイライラしたときに どうする？ 3 本時のめあてを考える。 勝負に負けてイライラしたときに 心を静めるおまじないを考えて、ト ラブル解決虎の巻に書きこもう。 (1) めあてを言葉に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。 4 本時の活動に見通しをもつ。 5 トラブル解決法を考える (1) 前回のVTRを見る。 (2) イライラしたときに心を静める方法 を考え、友達と話合う。 前の時間にしたおまじないとは 違うおまじないを考えてみよう (3) いくつか出た意見の中から、自分が してみたい方法を決める。 (4) 選んだ方法を実行する際に、大事な ポイントとなるところを考える。 6 役割交代劇をする。 7 VTRで自分の様子を確認する。 (1) ポイントを再度確認した後、VTR を見る。 (2) 自分や友達のよかったところを発表 する。 おまじないのポイントがしっ かりできていたぞ。本当にイライ ラしたときもやってみよう。 8 イライラしたときの解決法や大事なポ イントをトラブル解決虎の巻に書く。 9 次時の活動を確認する。 10 おわりのあいさつをする。	A 児は流れを視覚的に示した方が分かりやす いので、本時のトラブル場面を具体的にイメ ージできるように、「勝負をする」「負けそうに なる」「イライラする」「怒る」という流 れを絵で示す。また、B 児は言葉で説明した方 が分かりやすいので、ストーリーを書いた紙を 絵と一緒に示すことで、場面をイメージしやす いようにする。 本時の活動の手順を上から下へと流れにした ものを準備して、対象児がいつでも確認でき るように常時提示しておく。 黒板左手に、前回の役割交代劇の際の写真や それぞれが選択したおまじないを提示するこ とで、対象児が前回の活動の様子を想起して、そ れを本時の活動に生かしやすいようにする。 話し合い活動がスムーズにできるように、話し 合いの手順を記した「話し合いマニュアル」を準備 し、互いに意見を出し合ったり、話をまとめたり しやすいようにする。 話し合い中は、互いの意見が相手にしっかり伝 わっているかどうかを教師が確認するとともに、 伝わっていない場合は紙に書いて伝えることが できるように「伝言用紙」を準備しておく。 対象児が前時とは違う新たなおまじないを考 えることが難しい場合は、教師がいくつかの案 (おまじない)を準備しておき、その中から選 択できるようにする。また、教師の案は、対象 児がイメージしやすいように、絵や文で表し、 実際にしてみせるようにする。 役割交代劇をする前に、それぞれの子どもに おまじないのポイントを確認し、板書しておく ことで、子どもたちがそのポイントを意識して 演技できるようにする。 対象児は、自分の姿を想像して自分を振り返 ることが苦手なので、VTRを用いて視覚的に 自分の行動を確認できるようにする。VTRを 見る前に、再度それぞれのおまじないのポイン トを確認することで、それを意識してできてい たかどうかを自己評価しやすいようにする。 トラブル解決虎の巻は、トラブル場面、心を 静めるおまじない、大事なポイントの3つだけ を書くようにすることで、日常生活で振り返 るときに「学び」を想起しやすいようにする。